

13 腹腔鏡下胃全摘後空腸パウチによる再建法

蛭川 浩史・小林 隆・浦野 真嗣
下田 傑・多田 哲也

立川総合病院外科

腹腔鏡下胃全摘術後の再建方法は、overlap法、機能的端々吻合、PSIを装着してanvilを挿入する方法、経口anvilなどの方法が報告されている。われわれは開腹手術で空腸パウチによる再建術を積極的に行ってきたが、術後の経口摂取量は良好であるという印象を持っている。腹腔鏡下手術でも同方法を導入するためには、circular staplerを用いるのが容易であるが、食道にanvilを装着する必要がある。われわれは食道断端に直接まつり縫いを行い、腹腔鏡下にanvilを挿入した。さらに空腸でパウチを作成し、これを後結腸的に挙上、腹腔鏡下に食道パウチ吻合を行った。同方法により開腹術と同様の方法で再建することが可能となった。手技は容易で、安全に施行できる方法と考えられた。

14 SILS-cholecystectomy 導入に際しての考察

武者 信行・田中 亮・田辺 匡
桑原 明史・坪野 俊広・酒井 靖夫

済生会新潟第二病院外科

No-Scar手術としての新しい低侵襲手術手技NOTESが脚光を浴びるにつれ、その橋渡しの役割のSILS(Single Incision Laparoscopic Surgery)も注目を集め、世界的に急速な広まりを見せている。鏡視下手術手技中、一般外科医が最も施行する機会の多い“ラパコレ”4例に、2009年1月より試験的に導入したので、その短期成績を紹介し、施行に際し気づいた点に関して考察を加える。本邦でも急速に広まるのが必須であろうSILS導入検討の判断材料になればと呈示する。

II. 当番世話人講演

上部消化管に対する鏡視下手術 — 550例の経験から得たもの —

新潟市民病院外科

桑原 史郎

III. 特別講演

腹腔鏡下胃切除の進歩

癌研有明病院消化器外科 医長

福永 哲

第19回新潟内視鏡外科研究会

日時 平成22年7月10日(土)

午後1時15分～

場所 万代シルバーホテル

5F 万代の間

I. 一般演題

1 横行結腸癌、下行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の検討

中野 雅人・山崎 俊幸・須藤 翔

堅田 朋大・前田 知世・池野 嘉信

松浦 文昭・岩谷 昭・横山 直行

桑原 史郎・大谷 哲也・片柳 憲雄

新潟市民病院外科

【目的】横行結腸癌(以下TC)、下行結腸癌(以下DC)に対する腹腔鏡下手術の成績を検討した。

【対象】当科で原発巣切除を行ったTC、DC166